

## ⑤0 稚内港末広ふ頭岸壁改良事業 ～既存施設を活用した大型旅客船に対応した整備～

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

**キーワード** 大型クルーズ船、ドルフィン形式、早期整備効果、コスト縮減

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

大型旅客船に対応した岸壁改良事業。大型クルーズ船の寄港要請に対して早期に対応するため、既存施設を活用して、ドルフィン形式での改良を実施し、既設岸壁構造をそのまま延伸し施工した場合と比較し、半分以上の期間である2年間という短期間で工事を竣工させるとともに、コスト縮減を図った点が評価された。

### 1. はじめに

稚内港は、我が国最北に位置する重要港湾であり、道北地域における物資流通拠点のほか、利尻・礼文両島への連絡港として、地域経済を支える重要な港である。背後には利尻礼文サロベツ国立公園が広がり、利尻島や礼文島にも多くの観光客が訪れるほか、クルーズ船を利用した観光客も来訪しており、地域経済にも大きく寄与している。

稚内港においても、クルーズ船の寄港について船社や旅行会社などから多くの問合せが寄せられ、地元関係者から大型クルーズ船を活用した観光振興に対する期待が高まっていた。しかしながら、大型クルーズ船の寄港要請はあるものの、安全かつ円滑に係船する施設がないことから、大型クルーズ船に係留できる施設の早期整備が必要であった。



稚内港の全景

### 2. 事業の概要

本事業の実施にあたっては、整備効果の早期発現及び建設コストの縮減を図ることを課題として、北海道への寄港実績が多い12万t級の大型クルーズ船を対象に検討を進めた。その結果、既存施設である末広ふ頭岸壁の延長方向に大型クルーズ船が寄港した際に使用する係留用ピットを2基増設することにより、係留に必要な延長350mを確保した。さらに係留用ピット構造には早期の整備効果発現及び建設コスト縮減を実現するドルフィン形式を採用し、係船作業時の安全性と効率性を確保するため、係留用ピット間に連絡橋を架設した。



係留ピット完成状況

### 3. 事業の成果

既存施設を活用し、係留用ピットをドルフィン形式で整備することにより、既設岸壁構造をそのまま延伸する場合と比較して、建設コストを大幅に縮減でき、工事期間も2年という短期間で完成することができた。これにより、整備直後からクルーズ船が寄港するなど、早期に整備効果が発現し、今後も大型クルーズ船の寄港により、本事業は地域活性化に大きく貢献するものである。

### 4. おわりに

本事業において、大型クルーズ船の寄港要請に応えるための施設を短期間で完成できたことは、工事関係者や関係機関の皆様のご理解・ご協力によることであり、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。